水蔵場D遺跡発掘調査報告

2000 年11月

小杉町教育委員会

歴　史　年　表

	時代	年代	主な出来事	富山県内の主な遺跡
紀元前	先土器時代		・洞窟などを中心に移動生活を営み、狩猟や採集によって食糧を得る ・石や骨で道具を作る	直坂遺跡（大沢野町） 新造池Ａ遺跡・草山Ｂ遺跡（小杉町） 白岩藪ノ上遺跡（立山町）
	縄文時代	草創期 12,000年	・海や川に近い小高い土地に住み、狩猟・漁労・採集生活を営む ・土器が作られ始め、「煮る」ことが可能となり、多彩な食生活を営む	白岩尾掛遺跡（立山町） 臼谷岡ノ城北遺跡（小矢部市）
		早期 9,500年	・竪穴住居が作られる	桜峠遺跡（魚津市）
		前期 7,000年	・気候の温暖化に伴い海面が上昇する(縄文海進)	南太閤山Ｉ遺跡（小杉町） 小泉遺跡（大門町）・朝日貝塚（氷見市）
		中期 5,500年	・装飾性豊かな土器が作られる ・定住化により集落が形成され始める ・雑穀、堅果類の栽培始まる	不動堂遺跡（朝日町）・境Ａ遺跡（朝日町）・北代遺跡（富山市） 上野遺跡・水上谷遺跡（小杉町） 桜町遺跡（小矢部市）
		後期 4,000年		井口遺跡（井口村）・本江遺跡（滑川市）・五百歩遺跡（福野町）
		晩期 3,000年	・九州地方に稲作と金属器が伝わる	勝木原遺跡（高岡市）・丸山Ａ遺跡（上市町）
紀元後	弥生時代	前期 200年	・稲作のため低地に村を作り、収穫した穀物は高床式倉庫に保管する	
		中期 100年		石塚遺跡（高岡市）・下村加茂遺跡（下村）
		後期 100年	・57年　倭の奴国が後漢に使いを送り金印を授かる ・239年　邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを遣る	針原東遺跡・伊勢領遺跡（小杉町） 囲山遺跡（小杉町）・江上A遺跡（上市町） 南太閤山Ｉ遺跡（小杉町）・杉谷4号墳（富山市）
	古墳時代	前期 300年	・巨大な前方後方(円)墳が築かれる ・朝鮮半島より須恵器伝わる	柳田布尾山古墳（氷見市）・谷内16号墳（小矢部市） 稚児塚（立山町）
		中期 400年		五歩一古墳群・変電所西古墳・南太閤山Ｉ遺跡（小杉町） 宿屋古墳（小杉町）・浜山玉つくり遺跡（朝日町）
		後期 500年	・富山で須恵器が焼かれ始める ・５９３年　聖徳太子が摂政となる	若宮古墳（小矢部市）・園カンデ遺跡（氷見市） 流通業務団地№6遺跡（大門町）
	飛鳥時代		・６４５年　大化改新 ７世紀末　越中国成立 ７０１年　大宝律令の制定	頭川城が平横穴墓（高岡市） 城が平横穴墓（福岡町） 小杉丸山遺跡（小杉町）
	奈良時代		７１０年　平城京の遷都 ７４６年　大伴家持を越中守に任命	辻遺跡（立山町） 小杉流通業務団地内遺跡群（小杉町） 小杉上野南遺跡群 屋敷野池遺跡（小杉町）
	平安時代		７９４年　平安京に遷都 １０９０年　院政の開始 １１６７年　平清盛太政大臣となる	天池Ｃ遺跡・赤坂Ｃ遺跡・水蔵場Ｄ遺跡（小杉町） じょうべのま遺跡（入善町） 高瀬遺跡（井波町） 日の宮遺跡（小矢部市）
	鎌倉時代		１１９２年　源頼朝征夷大将軍となる １２７４年　文永の役 １２８１年　弘安の役 １３３３年　鎌倉幕府滅亡	江上Ｂ遺跡（上市町） 京ヶ峰古窯跡（八尾町） 藪田薬師中世古墓（氷見市） 日の宮城跡（小杉町）
	南北朝時代		１３３４年　建武の新政 １３３８年　足利尊氏征夷大将軍となる	
	室町時代		１３９２年　南北朝統一 １４６７年　応仁の乱 １４８８年　加賀一向一揆 １５４３年　種子島に鉄砲伝来 １５７３年　室町幕府滅亡 １５７９年　佐々成政富山城入る	増山城跡（砺波市） 阿尾城跡（氷見市）
	安土桃山時代		１５８２年　本能寺の変 １５８５年　豊臣秀吉関白となる １５８５年　越中三郡(利波・射水・婦負）が前田利長の領地となる １６００年　関ケ原の戦	弓庄城跡（上市町） 安田城跡（婦中町） 越中瀬戸焼窯跡（立山町・上市町）
	江戸時代		１６０３年　徳川家康征夷大将軍となる １６３９年　富山藩分藩、城主前田利常	
	近世		１８６８年　明治維新	

青字　小杉町の遺跡
赤字　国指定史跡及び遺物重要文化財指定遺跡

序

遺跡とは、人が土地に印した活動の跡です。すなわち地中に埋もれた町や村の跡、古墳等の墓跡、土器や炭を焼いた窯跡等すべて遺跡です。地中に埋もれた遺跡から当時の人々の生活を復元することが発掘調査の目的です。実際に発掘調査により出土した石器や土器などを目の当たりにすると太古の人々の優れた知恵と創造力に驚かされ、 自然に考古学の世界へと誘われます。まさに文献研究にはないモノが示す 醍醐味です。しかし、いざ発掘調査報告書となりますと専門用語に溢れ、わかりにくいもの です。

そこで本書は、水蔵場D遺跡の歴史的な位置や、炭焼窯について判かりやすくすることに心がけました。ぜひ、一般の皆様にも、 足下に眠る歴史に興味を持って頂き、大地に刻まれた過去からの手紙をごいっしょに紐といてみたいと思います。

最後に、 調査にあたり格別なご理解とご協力を賜った関係者の皆様に深く感謝いたします。

平成12年11月

小杉町教育委員会　　教育長　稲葉茂樹

例　言

1．本書は富山県射水郡小杉町入会地字瀧谷に所在する水蔵場D遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、浄土真宗親鸞会正本堂建立に先立ち、浄土真宗親鸞会の依頼を受け小杉町教育委員会が実施した。

3．調査期間、面積、調査担当者は次のとおりである。

分布調査　昭和61年４月16日　分布調査面積11.5ｈａ（延べ１日）富山県埋蔵文化財センター主任　岸本雅敏（現同センター所長）外６名

試掘調査　昭和61年５月22日～昭和61年６月６日　発掘調査面積　20㎡（延べ４日）富山県埋蔵文化財センター主任　岸本雅敏（現同センター所長）同文化財保護主事　久々忠義　（現同センター係長）・島田修一（現同センター主任）

本 調 査　平成12年５月15日～平成12年５月26日　発掘調査面積　80㎡　（延べ10日）小杉町教育委員会生涯学習課主事　稲垣尚美

4．調査事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、生涯学習課長御後庄司が総括し、調査事務を文化財保護係長古城久則が担当した。

5．調査の実施にあたって富山県埋蔵文化財センターから資料提供及び助言、浄土真宗親鸞会にご協力を頂いた。

6．本書の挿図・写真図版の表示は次のとおりである。

(1) 方位は真北、水平基準は海抜高である。また、基準杭は調査区の形状と地形の傾斜にあわせて打ち、Ｘ軸は真北から31°50″東へ偏る。

(2) 本書での土層の色調は、小出正忠・竹原秀雄編者1967『新判標準土色帖』日本色研事業株式会社を用いた。

7．記録資料は小杉町教育委員会が保管している。

8．発掘作業・報告書作成作業参加者は次のとおりである。(五十音順)

酒井すず子・坪田和子・土田ユキ子・久野静枝・開　一美・山口チズ子・吉沢康子

本文目次

序　文・例　言・目　次・年　表

Ⅰ　はじめに …… 1

1　遺跡の立地 …… 1

2　遺跡周辺の歴史的環境 …… 1

3　発掘調査に至るまで …… 1

Ⅱ　遺構

1　１号炭焼窯 …… 4

Ⅲ　まとめ …… 4

引用・参考文献

写真図版

挿図・表目次

第１図　周辺の炭焼窯 …… 2

第２図　炭焼窯の各部位名称 …… 4

第３図　１号炭焼窯 …… 5

第１表　炭焼窯一覧 …… 3

Ⅰ　はじめに

1　遺跡の立地

小杉町は富山県のほぼ中央に位置する、南北約12㎞、東西約５㎞の町である。町の北部は射水平野、南部は射水丘陵に2分され、今回調査を行った水蔵場D遺跡は、南部の射水丘陵上に位置する。

射水丘陵の形成は、新第三紀(約6500万年前から約200万年前)にまでさかのぼる。この時期の北陸地方は、大規模で激しい火山活動が発生し、北陸一帯は火山活動による大量の火山岩や火山砕屑岩で覆われ、やがて誕生した古日本海が北陸地方を覆い、海底には砂岩や泥岩などの厚い地層が堆積した。これらの地層が現在、富山・石川・福井県北方の丘陵の主体を構成し、また平野の地下に分布している。第四紀(約200万年前)に入ると火山岩や火山砕屑岩の上に十二町層（大桑累層）などが堆積して、その後砺波山丘陵東縁に位置する埴生累層を南北に切る石動断層の活動によりその西側に宝達丘陵の隆起帯、東側に射水平野の沈降帯が造られ、富山平野（広義）の西縁が形成された。

この時期、現在の呉羽山丘陵東縁を走る呉羽山断層の活動により、西側は隆起して呉羽山丘陵を、東側は沈降して富山平野（狭義）を形成した。なお呉羽山断層の南の縁には高清水断層が位置し、富山県南部の丘陵と山麓地帯の中新統を切るように射水丘陵が形成されている。この丘陵部分は、富山市・婦中町・砺波市の丘陵部と連続し、砺波市の標高170mの嘉礼谷に端を発する下条川が射水丘陵及び射水平野を開析しながら日本海へ流入する。

今回の調査位置は、現在射水丘陵の北端、下条川の右岸に位置し、周囲を谷で取り囲まれた約５haの、独立丘陵である。このような地形が操業当時からのものと仮定した場合、下条川を利用すると当時はまだ広大であった放生津潟(現富山新港)まで約5ｋｍで容易に日本海へ出ることができ、丘陵内部の炭焼窯や製鉄炉に比べ原材料の搬入や製品の搬出においてかなり有利であったと推測できる。

2　遺跡周辺の歴史的環境

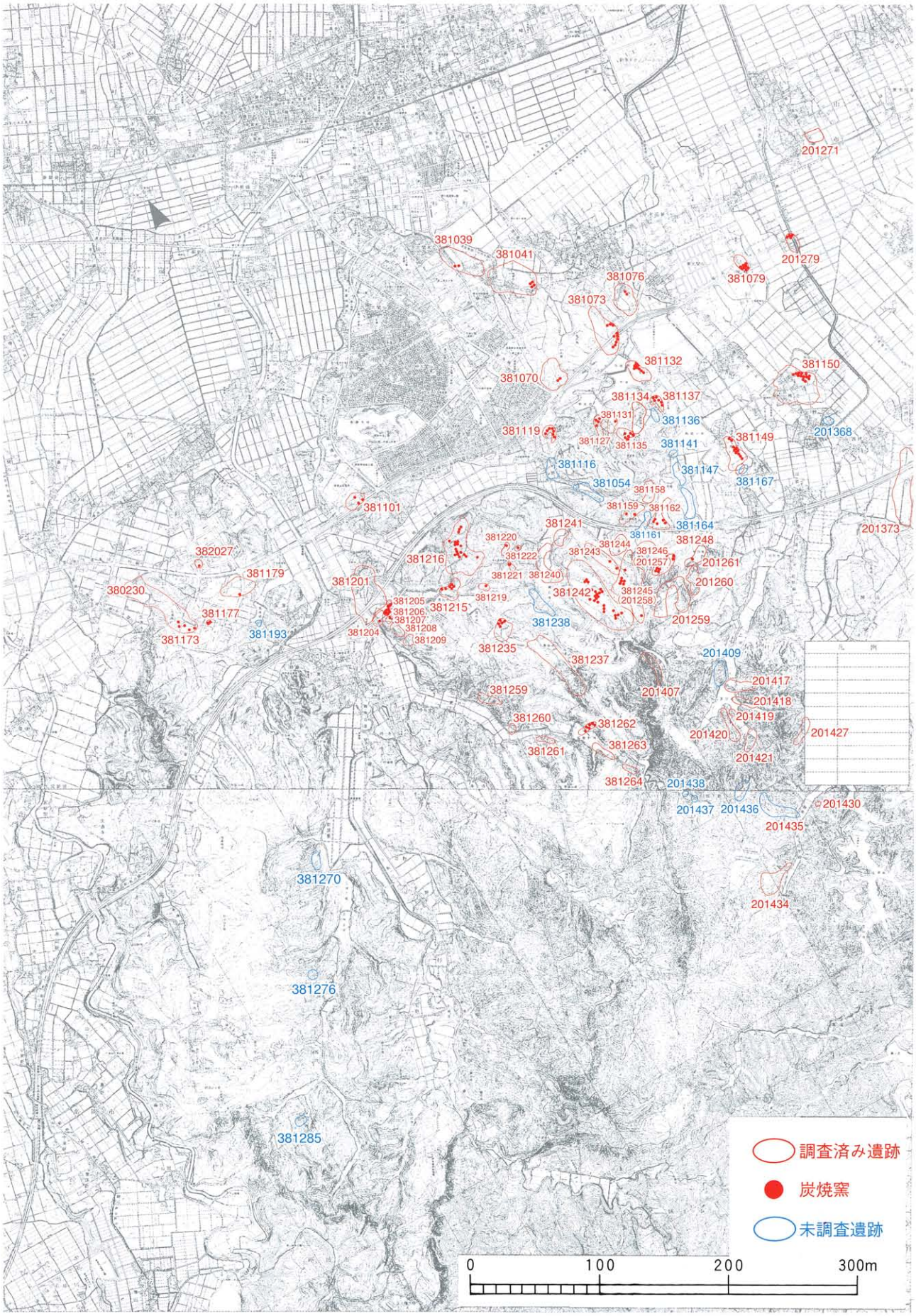
現在町内には２９６ヶ所の埋蔵文化財包蔵地がありそのうちの約42％、124遺跡が炭焼や鉄製錬に関わった生産遺跡で、射水丘陵あるいは射水平野南部に位置する。炭焼窯と製鉄炉は併設されることが多く、その理由として、木炭は鉄精錬の過程で砂鉄溶解用の燃料として、また製鉄炉の防湿剤（製鉄炉は湿気を嫌うため地下にたくさん木炭を敷き詰め、その上に構築される場合が多い）として用いられるためと考えられている。また、射水丘陵に集中する理由として、窯造りに適した粘性土と木炭となる樹木が同一の場所にあり、さらに精錬のための砂鉄も容易に採取・搬入できたと考えられる。　特に、水蔵場D遺跡（381219）には、水蔵場Ｈ遺跡（381215）、天池C遺跡（381216）、上野南Ｖ遺跡（381205）、上野南ⅡＢ遺跡（381206）が隣接するほか、周辺には国指定史跡である小杉丸山遺跡（382032）のほか、赤坂遺跡（381159）、赤坂A遺跡（381240）、赤坂C遺跡（381242）、石太郎Ｇ（381135）、石太郎Ｈ遺跡（381134）など多くの製鉄関連遺跡がある。これらの発掘結果から、長期にわたり射水丘陵において大規模な操業が展開されていたことが伺える。

3　発掘調査に至るまで

浄土真宗親鸞会が小杉町上野字瀧谷に所在する丘陵に本部を建設するに先立ち、富山県埋蔵文化財センターが昭和61年4月に分布調査を行い、同年5月～6月に試掘調査を行った。試掘調査は、水蔵場Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ、及び本堂建設部分について人力により幅１ｍないし、２ｍのトレンチを設け確認した。その結果、水蔵場Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ遺跡でそれぞれ炭焼窯を１基確認した。

そこで、発見された遺跡の保護に留意し施工するよう指導するとともに、水蔵場D遺跡については、当初炭窯を切る形で予定されていた排水路を施工業者と協議のうえ、炭焼窯を迂回するように排水路の位置を変更し工事を行った。

しかし、平成10年に浄土真宗親鸞会から、水蔵場D遺跡の保存に関して小杉町教育委員会に対して協議の申し出があり、その結果正本堂建設に先立ち記録保存を行うこととなった。


201271
381039
381041
201279
381076
381079
381073
381132
381150
381070
381134
381137
381131
381136
381119
381127
381135
381141
381149
201368
381116
381147
381054
381167
381158
381101
381159
381162
381241
381164
201373
381161
381248
381220
381244
382027
381222
381243
381246
381216
201257
201261
381179
381221
381240
381201
201260
380230
381242
381245
381219
(201258)
381205
381215
381177
381206
381207
381238
201259
381173
381193
381208
381204
381209
381235
201409
381237
201417
381259
201407
201418
381260
381262
201419
201420
201427
381261
381263
201421
381264
201438
201437
201436
201430
201435
381270
201434
381276
381285
調査済み遺跡
炭焼窯
未調査遺跡
0
100
200
300m

第１図　周辺の炭焼窯

炭焼窯を有する調査済み遺跡

番号	遺跡名	所在地	炭焼窯の数	調査の有無	時代	備考
富山市						
201257	野田池A	山本	2基	平元·2年試掘·平3年本調査	古代·奈良·平安	381246
201258	赤坂E	山本	9〃	〃	奈良·平安	381245
201259	野田池B	〃	10〃	平元·2年試掘·平3年本調査	〃	381249
201260	野田池C	〃	4〃	〃	〃	
201261	野田池D	山本			〃	381248
201271	中老田B	中老田	2〃	平2年一部試掘	〃	
201279	中老田C	〃	4〃	平3年本調査	縄·古墳·奈·平·中·近	
201373	北押川·墓ノ段	〃北押川字土坂		昭47年試掘·本調査	旧石·縄(前·中)奈·平	
201407	明神	山本字明神	6〃	平元年試掘·平2年本調査	縄(前·後)奈·平	
201417	室住池Ⅲ	山本	7〃	平元年試掘	平安	
201410	室住池Ⅴ	〃	3〃	平元年試掘·平3年本調査	奈良·平安	
201419	室住池Ⅶ	〃		平元年試掘	〃	
201420	室住池Ⅵ	山本字宮谷	1〃	平元年試掘·平3年本調査	〃	
201421	室住池Ⅷ	〃	5〃	〃	縄(早)·奈·平	
201427	三熊袋田	三熊字袋田	4〃	平元年試掘	奈·平·中·近	
201430	三熊中山窯跡	三熊字中山	1〃	平4年本調査	奈良·平安	
201434	三熊内山窯跡群	三熊字内山	11〃	平2年本調査	〃	
小杉町						
381039	ーツ山古墳群(S地区)	黒河新	2基	昭63年試掘·本調査	弥·古墳·奈	保存
381041	黒河西山	〃	4〃	昭62·平2·3年試掘 昭62·63年本調査	古代·奈·平·近	
381070	高山	黒河字高山	2〃	昭54年本調査	旧石器·平安	
381073	東山Ⅱ	黒河字東山	10〃	昭54·57年本調査 平2·3年試掘	縄·古墳·奈	大部分保存
381076	表野	黒河新字表野	2〃	昭54年本調査 平3年試掘	旧石器·縄·奈	
381079	塚越A	塚越	8〃	平3年本調査	弥生·奈良	
381101	南太閤山Ⅱ	南太閤山	3〃	昭55～58年本調査	縄·弥·古墳·古代·奈·平	炉保存
381119	上野赤坂A	黒河	7〃	昭55年本調査	奈良·平安	
381127	石太郎Ⅰ	〃	4〃	平3年本調査	奈良	
381131	石太郎J	〃	1〃	平2年試掘·平3年本調査	〃	
381132	土代A	〃	8〃	昭56年試掘	旧石·縄·古代·奈·平	保存
381134	石太郎H	〃	1〃	平2年一部試掘	古代	〃
381135	石太郎G	〃	6〃	平2·3年本調査	奈良·平安	
381137	石太郎C	〃	6〃	昭56年本調査	旧石器·奈良	
381149	草山B	山本新	10〃	昭59·60年一部本調査	旧石·縄·奈·平	
381150	椎土	椎土	13〃	昭61·62年一部本調査	旧石·縄·奈·平·中	大部分保存
381158	太閤山ランド内No.43	黒河	3〃	平2年一部本調査	古代	
381159	赤坂	〃	2〃	昭59年本調査	平安	
381162	野田A	〃(野田)	5〃	昭57年本調査	古代·奈良	
381173	小杉丸山	青井谷字丸山	5〃	昭57～60年本調査	旧·縄·弥·古墳·古代～中	保存 382032
381177	小杉流団No.32	〃	2〃	昭55年本調査	旧石器·平安	
381179	小杉流団No.18	〃	1〃	昭54·55平元·3年本調査	縄·古墳·奈·平	
381201	上野	上野字高畠	2〃	昭45～47年本調査	旧·縄·弥·古代·奈·平·近	
381204	上野南Ⅰ	〃	1〃	平元年本調査	縄文·古代	
381205	上野南Ⅴ	〃	2〃	昭63·平元年本調査	古代	
381206	上野南ⅡB	〃	5〃	平元年本調査	縄·古代·平·近	
381207	上野南ⅡA	〃	1〃	〃	古代·奈·中	
381208	上野南ⅢA	〃	12〃	昭63年試掘	奈良·平安	保存
381209	上野南ⅢB	〃		〃	〃	
381215	水蔵場H	水蔵場	6〃	平3年試掘·平5年本調査	古代	
381216	天池C	入会地字天池	18〃	平3年試掘·平4·5年本調査	古墳·奈良·平安	
381219	水蔵場D	水蔵場	1基	昭61年試掘	古代	保存
381220	水蔵場A	〃	1〃	〃	〃	〃
381221	水蔵場C	〃	1〃	〃	〃	〃
381222	水蔵場B	〃	1〃	〃	近世	〃
381235	切石谷池C	〃	15〃	平元・3年試掘	古代	
381237	穴ヶ谷池	入会地字赤坂	7〃	平元年本調査	〃	
381240	赤坂A	〃	5〃	昭55年本調査・平元年試掘	〃	
381241	赤坂B	〃	1〃	平元年試掘・平2·3年本調査	奈良·平安	
381242	赤坂C	平野	38〃	〃	〃	
381243	赤坂D	〃	11〃	〃	〃	
381244	山本	上野	6〃	平元年試掘		
381245	赤坂E	入会地字赤坂	26〃	平元年試掘・平3年本調査	奈良·平安	201258
381246	野田池A	山本字野田	12〃	平3年本調査	古代·奈·平	201257
381248	野田池D	平野	1〃	平元年試掘	奈良·平安	201261
381259	水蔵場E	入会地字水蔵場	6〃	昭63年一部試掘	古代	保存
381260	水蔵場F	〃	1〃	〃	縄文·古代	〃
381261	屋敷野池A	浄土寺	1〃	〃	古代	〃
381262	屋敷野池B	〃	6〃	平元年本調査	〃	
381263	屋敷野池C	〃	2〃	昭63年一部試掘	〃	保存
381264	屋敷野池D	〃	1〃	〃	〃	〃
大門町						
382027	小杉流団No.6	水戸田字石名山	1基	昭56年本調査	旧石·縄·古代·奈·平	
382032	小杉丸山	水戸田字西願	1〃	昭60年試掘・昭57～60年本調査	旧石器～中世	

第1表　炭焼窯一覧

炭焼窯を有する未調査遺跡

番号	遺跡名	所在地	炭焼窯の数	調査の有無	時代	備考
富山市						
201368	山本	山本	1基		縄文	
201409	室住池Ⅱ	〃	1〃		奈良·平安	
201435	坂下新Ⅰ	三熊	13〃		〃	
201436	坂下新Ⅱ	〃	1〃		〃	
201437	坂下新Ⅲ	〃	1〃		〃	
201438	坂下新Ⅳ	〃	1？		〃	
小杉町						
381054	太閤山ランド内No.28	黒河	6基		古代	
381116	太閤山ランド内No.14	平野	2〃		〃	
381136	太閤山ランド内No.24	黒河	1〃		〃	
381147	太閤山ランド内No.40	〃	?〃		〃	
381161	太閤山ランド内No.48	〃	2〃		〃	
381164	太閤山ランド内No.51	〃	11〃		〃	
381167	唐戸池	池多	1〃		奈良·平安	
381193	小杉流団No.27	青井谷字丸山	?〃		古代	
381238	綿打池B	平野	1〃		〃	
381270	新屋敷南	新屋敷	1〃		〃	
381276	立神上堤C	〃	1〃		〃	
381285	西谷No.6	西谷	1〃		〃	
381141	太閤山ランド内No.26	山本新	1〃		旧石·縄·奈·平	※太閤山ランド内No.34と同じ

㊟ 複数の市町村に遺跡がまたがる場合は他市町村の遺跡番号を備考欄に記載した

Ⅱ　遺構

1　炭焼窯

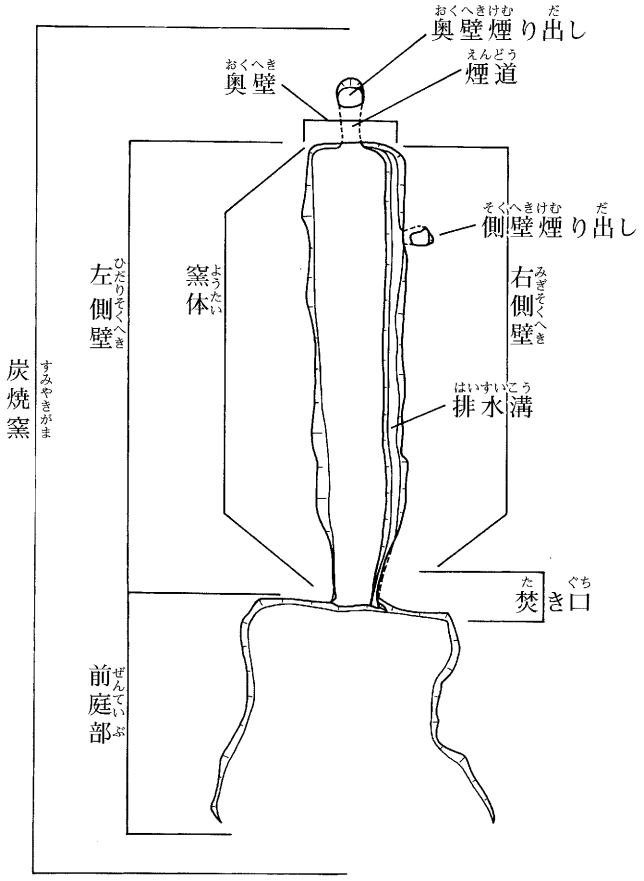
今回調査した炭焼窯の各部位の名称については第２図のとおりである。

11号炭焼窯

水蔵場D遺跡で確認した遺構は、炭焼窯1基である。遺構の遺存状況は、昭和61年に行われた試掘調査時の平面図及び、記録写真によると既に発見当時水田により前庭部は削平を受け、消失していたようである。

炭焼窯の推測される前庭部の標高は33.20m、奥壁煙出しの検出面の標高は36.00mで、南向きの約10～15°の緩やかな斜面に位置する半地下式の炭焼窯である。炭焼窯は等高線に対しほぼ垂直に構築され、左側壁から右側壁に向かってわずかに斜面が傾斜し、主軸はN－30°－Eに傾く。

窯体は長さ７m、奥壁部分の幅約１m、中央部分の幅約１m、焚き口部分の幅約0.65mと、小型の炭焼窯である。窯体床面は焚き口付近が約10°、中央部分から奥壁に向けて約5°傾斜し、奥壁煙出し付近ではわずかに下降し弓なりになる。床面は1枚で、奥壁部分から焚き口にかけて炭化物の層が認められた。奥壁・側壁は剥落している部分がほとんどで、工具痕は確認できなかった。



第２図　炭焼窯の各部位名称

煙出しは、奥壁煙出し1ヶ所、側壁煙出し1ヶ所を検出した。煙出しはいずれも地上と窯体内からの2方向から掘り込み貫通させている。煙出しの底はいずれも床面よりも低い。

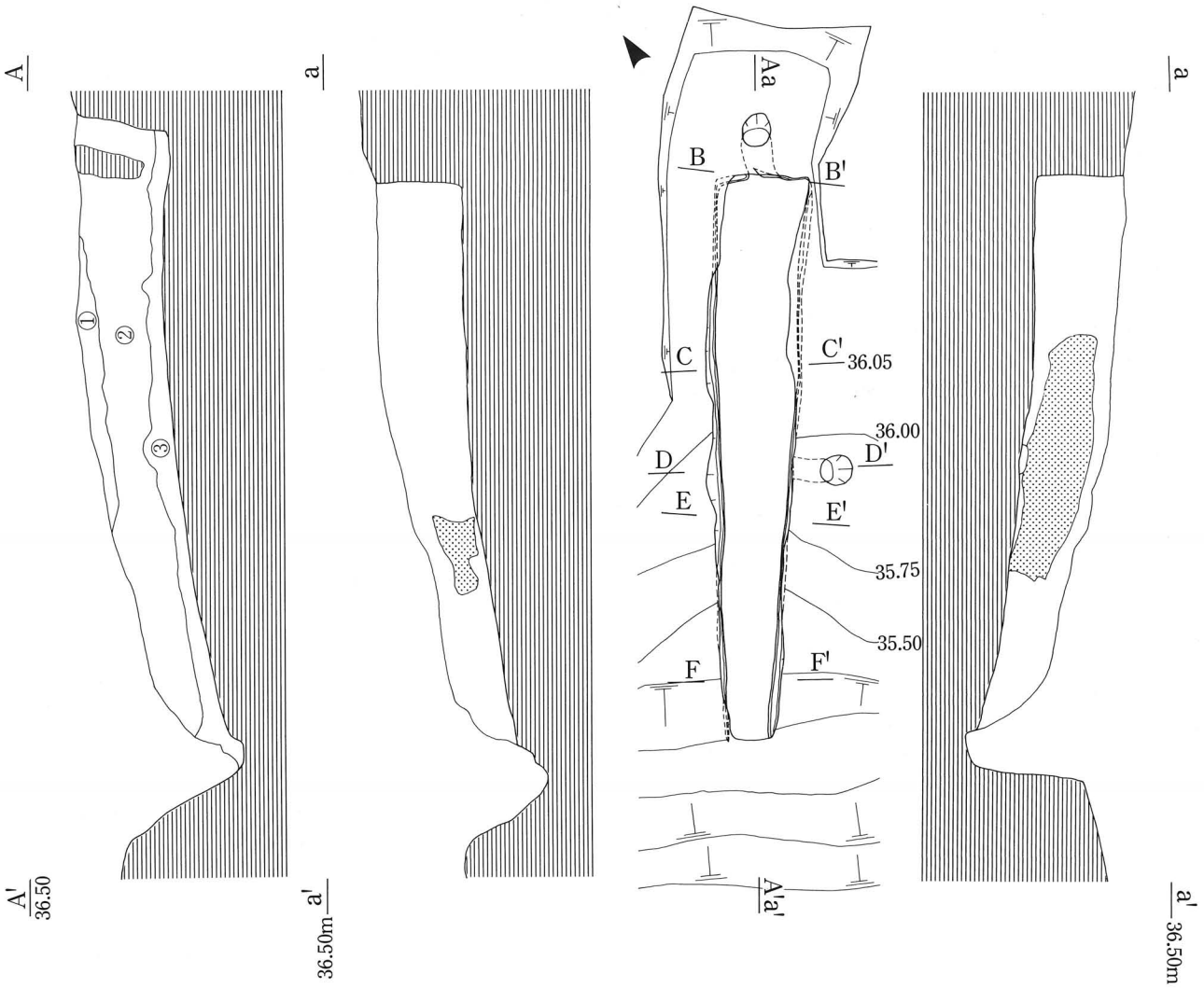
排水溝は、奥壁の奥壁煙出し煙道口脇に端を発し左右にの床面の端に沿って、焚き口付近まで掘られている。

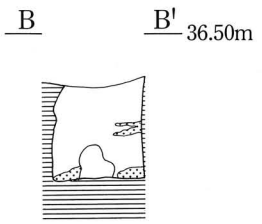
Ⅲ　まとめ

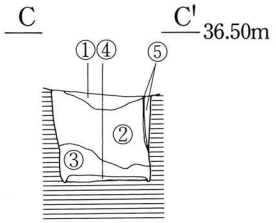
水蔵場D遺跡からは土器の出土がなかったため、1号窯の時期について断定することはできないが、炭焼窯の規模・形態は、本遺跡の北西約250mに位置する水蔵場H遺跡と非常に類似する。この水蔵場H遺跡の11号窯の奥壁煙出しで煙道の泥止めに使われていたと考えられる堝の年代から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

＝　参考文献　＝

ア　『赤坂遺跡発掘調査報告』　1997　小杉町教育委員会
イ　『石太郎Ｇ遺跡　石太郎Ｊ遺跡』　1992　富山県埋蔵文化財センター
　　『石太郎Ｉ遺跡　石太郎Ｊ遺跡』　1992　富山県埋蔵文化財センター
ウ　『上野南遺跡群発掘調査報告』　1991　小杉町教育委員会
コ　『小杉町東山Ⅱ遺跡発掘調査報告』　1995　小杉町教育委員会
　　『小杉町教育委員会埋蔵文化財発掘調査一覧　１９９０年度』　1991　小杉町教育委員会
ミ　『南中田Ｄ遺跡発掘調査報告書』　1991　富山県埋蔵文化財センター

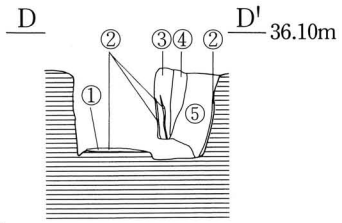






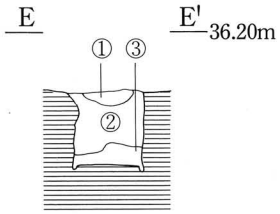
C－C'

① 明黄褐色土（10YR６／６）締まり有り、粘性有り。微細な炭化物含む。
② 橙色土（５YR６／６）締まり有り、粘性弱。炭化物と焦土ブロック含む。
③ 暗赤色土（10R３／４）締まり強、粘性無し。焦土ブロックを主体とし②層と炭化物を含む。
④ 赤黒色土（10R２／１）締まりやや強、粘性無し。炭化物層。
⑤ 赤黒色土（10R２／１）締まりやや強、粘性無し。側壁。



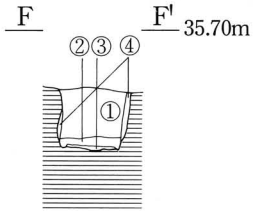
D－D'

① 赤黒色土（10R２／１）締まりやや強、粘性無し。炭化物層。
② 赤黒色土（10R２／１）締まりやや強、粘性無し。側壁。
③ 橙色土（５YR６／８）締まり有り、粘性弱。被熱部分。
④ 黄橙色土（10YR７／８）締まり有り、粘性やや強。地山。
⑤ 黄橙色土（10YR７／８）締まり有り、粘性やや強。地山土に僅かに炭化物含む。



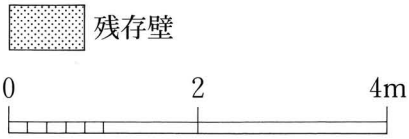
E－E'

① 明黄褐色土（10YR６／６）締まり有り、粘性有り。微細な炭化物含む。
② 橙色土（５YR６／６）締まり有り、粘性弱。炭化物と焦土ブロック含む。
③ 暗赤色土（10YR３／４）締まり強、粘性無し。焦土ブロックを主体とし②層と炭化物を含む。

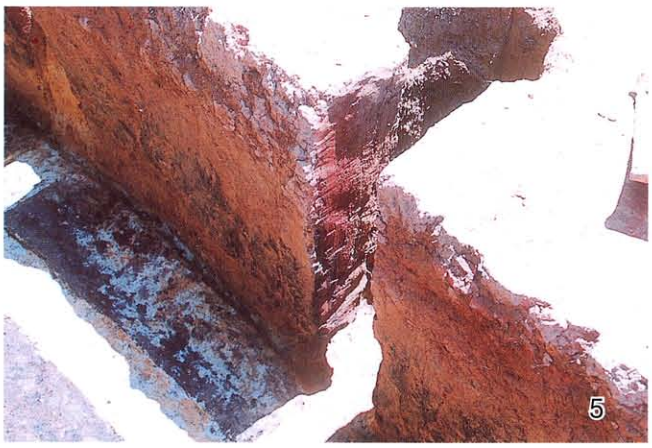


F－F'

① 橙色土（５YR６／６）締まり有り、粘性弱。炭化物と焦土ブロック含む。
② 暗赤色土（10YR３／４）締まり強、粘性無し。焦土ブロックを主体とし②層と炭化物を含む。
③ 暗赤色土（10YR３／４）締まり強、粘性無し。焦土ブロックを主体とし②層と炭化物を含む。
④ 橙色土（５YR６／８）締まり有り、粘性弱。被熱部分。



第３図　１号炭焼窯



図版　1．1号炭焼窯　2．奥壁　3．E—E'土層　4．側壁煙出し　5．側壁煙出し断ち割り

報告書抄録

ふりがな	みずくらばでぃいせきはっくつちょうさほうこく
書名	水蔵場D遺跡発掘調査報告
編著者名	稲垣尚美
編集機関名	小杉町教育委員会
所在地	富山県射水郡小杉町戸破1511
発行年月日	2000年11月

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m^2	調査の原因
みずくらばでぃ 水蔵場D	とやまけん 富山県 いみずぐん 射水郡 こすぎまち 小杉町 うわのあざ 上野字 たきだに 瀧谷	380	381219	36° 41′ 03″	137° 05′ 32″	20000515～ 20000526	80	浄土真宗親鸞会 正本堂建立に先 立つ本調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
水蔵場D	生産遺跡	奈良・平安	炭焼窯1基	なし	遺物の出土がないため時期を特定できないが、隣接する水蔵場H遺跡の炭窯と非常に形態的に類似する。

水蔵場D遺跡発掘調査報告

平成12年11月1日

編　集　小杉町教育委員会

発　行　小杉町教育委員会

印　刷　日興印刷株式会社